

「豪州先住民族への複合施設建築計画」

K99094 増田 悟



Background

オーストラリアは多文化国家である。様々な文化、人種が存在する中で特に先住民族のアボリジニの問題が存在する。

アボリジニの現状は先進国の国民でありながら、開発途上国の状態におかれている人が数多くいる。

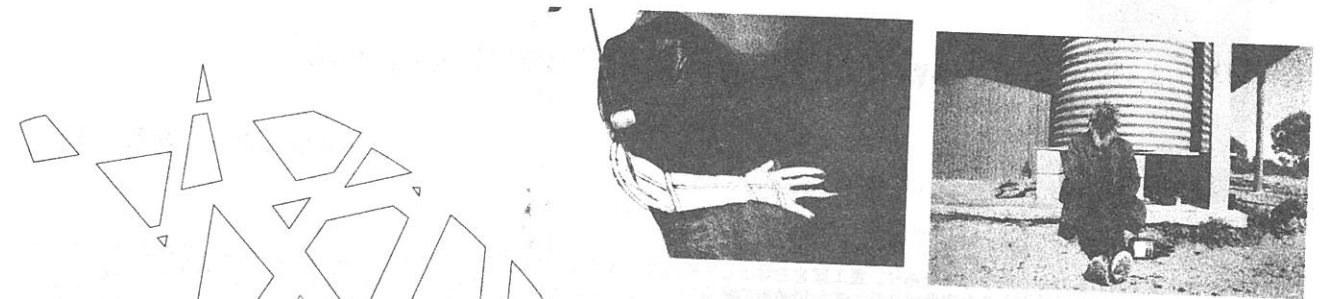
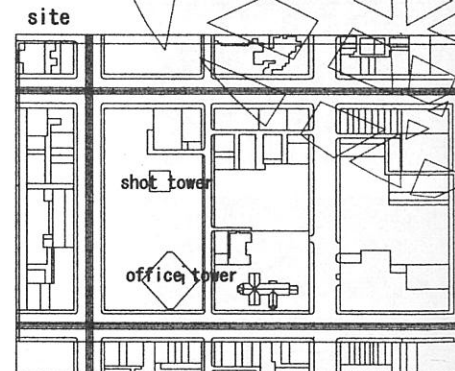
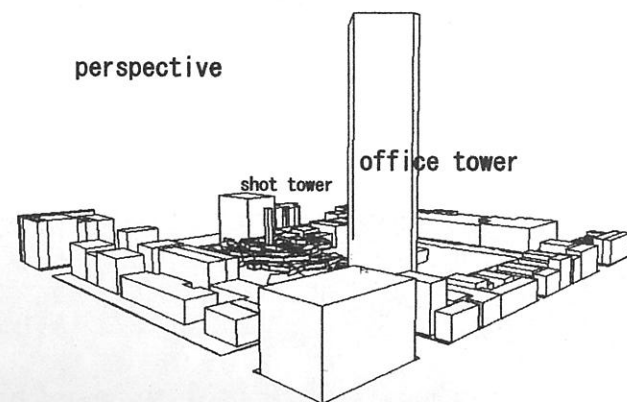
現在彼らが直面しているのは、職業／教育／健康／精神面などの問題である。大都市のアボリジニは最貧層のスラム的な地区に固まって住むことが多い。こうした地区では失業者が多く、犯罪が多い。またアボリジニは比較的あつゝ社会保障を受けられるようになっているため、働かなくても何とか食べていくことができるようになっているが、そういう状態では希望をもてず、若者たちはアルコールに溺れたり、自暴自棄になりやすい状況になっている。



Melbourne, Australia
Melbourne Central
Lonsdale through to LaTrobe, Melbourne City

現在、熊谷組と黒川紀章に設計されたショッピングセンターが建てられている。またここには1890年に建てられたショットタワーという煉瓦造建築が保存されている。ここでオフィスタワーとショットタワーを比較する。2つの「距離」は100mもない。しかし、2つの建築の「時間」には100年もの差がある。2つの建築を「時」を示す指標として再利用する。

オーストラリアが1901年に国家となってから約100年が過ぎた。100年間で技術は著しく進歩した。アボリジニはこの間（正確にはヨーロッパ人が上陸してから200年間だが）に様々なことが変化した。アボリジニにとっては悲惨なこの「変化し、失われた」時間を「未来へ繋げる」時間に転換し、新しい時代・関係を築き他のオーストラリア人と共栄していく場に再生する。



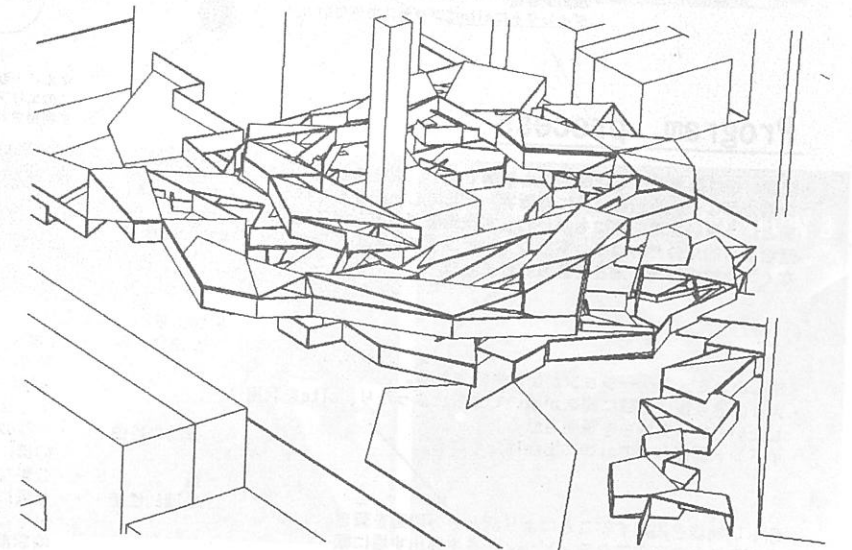
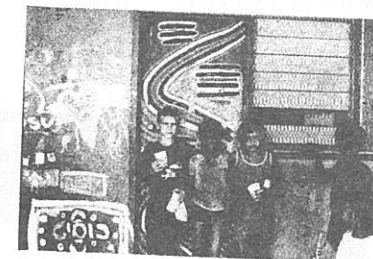
Concept

アボリジニが経済的に自立し、自らの文化に誇りを取り戻すため、また現状を知ってもらうために彼らの文化を展示、伝承する場を計画する。

建築の形はオーストラリアの歴史や、未来の共栄の期待を表している。歴史を様々なライン（文化、戦争、人種、民族・・・）に見立て、円を分割する。

分割されたものは一つの民族であり、個人である。これでまた新たな形体を創造する。

様々なものがランダムに、また螺旋状に積み重なっていき、一つの巨大な橋へと繋がっていく。



指導教員名 伊藤 洋子教授